

戦略 3

個性と魅力にあふれる 交流盛んな地域づくり

- 施策1 個性と厚みのある文化の創造と発展 52
- 施策2 スポーツを通じた活力の創造 58
- 施策3 選ばれ続ける観光地としてのブランド力の強化 65
- 施策4 交流人口の拡大に資する陸・海・空の交流基盤のさらなる充実 ... 71
- 施策5 地域活力の向上に向けた移住・定住の促進 76
- 施策6 個性豊かな地域づくり 78
- 施策7 世界に開かれた国際交流の推進 82

個性と魅力にあふれる交流盛んな地域づくり

石川県には、藩政期から受け継がれてきた厚みのある文化や里山里海をはじめとする自然など、豊富で魅力ある資源が多くあり、東京オリンピック・パラリンピックや北陸新幹線の県内全線開業、いしかわ百万石文化祭 2023 など、国内外との交流促進の好機が訪れているほか、コロナ禍で東京一極集中のリスクが改めて認識されるなど、地方への関心が高まっています。

こうした状況を踏まえ、石川県の文化のさらなる磨き上げや、質の高い文化資源を活用した文化観光の推進、一体的なストーリーとしての魅力発信に取り組むとともに、さらなる交流基盤の充実やスポーツ振興、国際交流の推進などを通じた多様な交流が盛んな地域づくりを進めていく必要があります。

【主要目標】

指標名	基準値	目標値 (R14 年度)
兼六園周辺文化の森文化施設来館者数	311 万人 (H27 ~ R1 年度の平均)	354 万人
観光消費額	3,174 億円 (H27 ~ R1 年の平均)	4,000 億円
人口の転入出数	▲ 2,163 人 (R4 年)	社会減解消 (R9 年)

施策1 個性と厚みのある文化の創造と発展

石川県の多彩で質の高い文化の継承とさらなる磨き上げを図るほか、県民の文化意識の向上や文化に親しむ機会の充実、豊かな食文化の振興、文化を通じた地域活性化、文化遺産の保存・活用などの取組を推進します。

(1) 石川県の優れた文化の継承と発展

石川県の個性と厚みのある文化の継承と発展のため、いしかわ文化振興条例に基づき、石川県の文化の裾野の拡大やさらなる高みを目指した取組を進めます。

- 全国最大のいしかわ県民文化振興基金を活用した、文化団体の自主的・主体的な文化活動の支援
- 文学、音楽、美術、デザイン、写真、演劇、舞踊、メディア芸術などの振興
- 能楽、邦楽、日本舞踊などの伝統芸能の継承と発展
- 輪島塗、山中漆器、加賀友禅、九谷焼などの伝統工芸の継承と発展
- 歴史と伝統に裏付けられた食文化の継承と発展
- 茶道、華道、書道などの生活文化や芸能、国民的娯楽の振興
- 地域住民が主体となったふるさと文化の継承支援、掘り起こし
- オーケストラ・アンサンブル金沢による音楽文化の国内外への発信
- 伝統文化の継承者などの文化の担い手の育成
- 文化活動で顕著な成果を収めた者や文化の振興に貢献された者の顕彰

いしかわ文化振興条例

北陸新幹線金沢開業を機に、石川県の豊かな文化を広く国内外に発信するとともに、さらなる文化の高みと裾野の拡大を図るため平成27年に制定しました。

- ・ 全国最大の基金の運用益を活用した公募助成事業の実施
- ・ いしかわ文化の日（10月第3日曜日）に県民向け文化施設無料化など



いしかわ文化の日
ロゴマーク

(2) 「いしかわ百万石文化祭2023」の開催とポスト国民文化祭の取組の推進

① 「いしかわ百万石文化祭2023」の開催

第38回国民文化及び第23回全国障害者芸術・文化祭である「いしかわ百万石文化祭2023」を「県民総参加の文化の祭典」、「次世代への継承・発展」、「石川県ならではの文化資源の活用」、「文化の力による観光の推進」、「文化と地場産業の連携」、「文化を通じた国際交流の推進」の6つの基本方針の下で開催することにより、県民が石川県の文化の価値を再認識し、誇りと愛着を感じてもらうとともに、石川県ならではの優れた文化を観光資源と位置付けて、国内や海外からの誘客を積極的に図ります。



いしかわ百万石文化祭
2023 ロゴマーク

②ポスト国民文化祭の取組の推進

国民文化祭を一過性のものとせず、開催の意義や成果を継承し、文化活動への県民総参加をさらに推進します。

- 国民文化祭のレガシーの継承・発展に向けた取組の推進
- いしかわ県民文化振興基金の助成対象の拡大、規模拡充の検討
- 「ビエンナーレいしかわ秋の芸術祭」を隔年開催から毎年開催に拡充 など

(3) 文化に親しむ環境づくり

①県民の文化意識の向上と文化に親しむ機会の充実

文化への関心や理解を深めるなど県民の文化意識の向上を図るとともに、あらゆる方々が文化に親しむ機会の充実に取り組みます。

- 「いしかわ文化の日（10月第3日曜日）」と「いしかわ文化推進期間（いしかわ文化の日～文化の日）」における文化施設の利用や文化活動への参加の促進
- 茶道、華道などの伝統文化活動をより身近に感じることのできる場の創出に向けた取組
- 多くの人々が優れた文化を鑑賞できる機会の充実
- 文化活動への参加や活動成果を発表する機会の充実
- 「いしかわ・金沢風と緑の楽都音楽祭」のさらなる充実
- 障害のある人の文化活動を発表する場の提供や、県民が障害者芸術を鑑賞する機会の充実

いしかわ・金沢風と緑の楽都音楽祭

石川の音楽文化を発信するため、一流の演奏を鑑賞する機会を提供するとともに、地域に密着した石川県ならではの企画を盛り込んだ音楽祭を開催しています。

- ・ オーケストラ・アンサンブル金沢をはじめ、国内外の一流の演奏家による本格的なクラシックコンサート
- ・ 県の伝統芸能である邦楽とクラシックとのコラボレーション公演 など



オーケストラ・アンサンブル金沢

②文化の担い手である子どもたちが石川県の文化に触れる機会の充実

石川県の文化の担い手である子どもたちが石川県の文化の奥深い魅力や神髄に触れる機会の充実に取り組みます。

- 学校等における古典芸能鑑賞教室、県民移動能の開催
- 美術館学芸員による学校出前講座の開催

③ 知の殿堂としての県立図書館の運営

文化立県・石川の「知の殿堂」である県立図書館が、県民の多様な活動の拠点となるよう、文化交流機能・公文書館機能・生涯学習機能の充実を図ります。

- 知的な活気にあふれ、何度でも足を運んでもらうためのイベントや企画展の開催
- 貴重資料や歴史公文書のデジタルアーカイブ*化の推進
- 大学や民間団体と連携した、講習会の開催などによる県民の課題解決支援

石川県立図書館

県民の多様な文化活動・文化交流の場として、県民に開かれた「文化立県・石川」の新たな“知の殿堂”として、令和4年7月に移転新築オープンしました。

- ・開架冊数 約30万冊（従前は約11万冊）
- ・閲覧席数 約500席（従前は約70席）



県立図書館の閲覧エリア

(4) 豊かな食文化の振興

石川県には、豊かな「食材」、発酵食品などの「食品加工技術」、伝統工芸品などの「器」といった独自の食文化が育まれており、食文化推進本部の立ち上げをはじめ、食文化に親しむ環境づくりや魅力の発信などにより、食文化の振興を図ります。

- 歴史と伝統に裏付けられた食文化の継承と発展 【再掲】(戦略3 施策1(1) 参照)
- 石川県の食文化への理解を深める機会の充実
- 健全な食生活の実践に向けた幼少期からの食育の推進 【再掲】(戦略5 施策1(3) ③参照)
- 学校における食育の推進 【再掲】(戦略4 施策1(3) ⑦参照)
- 学校給食における地場産物の一層の活用 【再掲】(戦略4 施策1(3) ⑦参照)
- 石川県産品のブランド価値の向上(ブランド食材、伝統的工芸品、里山里海資源、食文化など) 【再掲】(戦略1 施策5(1) 参照)
- 国内外のアンテナショップによる県産品の魅力・価値の効果的な発信 【再掲】(戦略1 施策5(1) 参照)
- 伝統的な技術などを活かした商品開発・販路開拓 【再掲】(戦略1 施策4(1) ①参照)
- 里山里海の地域資源を活用した新商品・新サービスの開発や新たな生業の担い手の参入の促進 【再掲】(戦略2 施策3(2) ①参照)
- 朝どれ水産物など新鮮な水産物の供給を基にした首都圏での販売や観光誘客の拡大に向けた県産水産物の魅力発信 【再掲】(戦略2 施策5(2) 参照)

* デジタルアーカイブ…様々なデジタル情報資源を収集・保存・提供する仕組みの総体

(5) 高等教育機関や他の自治体と連携した文化を通じた地域活性化

① 芸術大学等の高等教育機関と連携した文化芸術による地域活性化などの推進

芸術大学等の高等教育機関と連携することで、最先端の研究を活かした文化芸術による地域活性化などを推進します。

- 東京藝術大学との連携による障害のある人や子ども、高齢者などが芸術・文化に親しむ機会の充実
- 金沢美術工芸大学との連携によるアートを通じた地域社会の活性化

② 文化や観光を通じた広域的な地域活性化

相互に関連する地域資源を軸に自治体間の連携を図り、文化や観光を通じた広域的な地域活性化を図る取組を進めます。

- 富山県、静岡県と連携した日本三霊山(立山・白山・富士山) の魅力発信
- 温泉文化の魅力発信

三霊山連携協定

古代より信仰の対象として人々から崇拜され、「日本三霊山」と称せられてきた「立山」、「白山」、「富士山」この三霊山が有する歴史的・文化的価値を活用し、三県の地域振興と交流拡大を図るため、令和5年1月に富山県、静岡県と「日本三霊山を活用した地域振興に向けた連携・協力に関する協定」を締結し、文化・学術、スポーツ、経済・観光などの分野で連携・協力して取り組んでいます。



富山県 立山



石川県 白山



静岡県 富士山

(6) 「兼六園周辺文化の森」における連携強化と魅力の向上

① 「兼六園周辺文化の森」の各施設の連携による文化発信拠点機能の強化

「兼六園周辺文化の森」の各施設等の緊密な連携により、文化発信拠点としての機能を強化し、石川県ならではの文化資源の魅力を発信します。

- V R (Virtual Reality) などの最先端デジタル技術を活用した文化資源の発信
- 兼六園周辺文化の森デジタルパスポート発行などによる文化施設間の回遊性向上
- 魅力的な施設を活用したミュージアムツーリズムの推進
- エリア内の文化施設の入館料の相互割引の実施
- 石川四高記念文化交流館での明治・大正レトロ文化の魅力発信
- 全国有数の文化ゾーンとして、多彩なイベントの展開によるエリア全体のにぎわい創出
- ビッグデータなどを活用した戦略的な観光施策の立案・実施・効果検証

【再掲】(戦略3施策3(7)①参照)

② 「兼六園周辺文化の森」の整備と活用

都心に風格とにぎわいをもたらす「兼六園周辺文化の森」の整備と活用に、金沢市とも連携し取り組みます。

- 金沢城公園の整備(金沢城二の丸御殿の復元整備、石垣の保全)
- 兼六園の保存・活用
- 「兼六園周辺文化の森」の歩行回遊性・快適性の向上
- 知事公舎の利活用
- 旧県立図書館一帯の緑地化の検討

兼六園周辺文化の森

兼六園を中心とする半径約1kmの範囲の中に、藩政期から近代に至るまで各時代の歴史が重層的に集積する石川県を代表する文化空間です。

- ・ 国・県・市の工芸・美術、歴史、伝統芸能などの文化施設や公園緑地が集積(国立工芸館、県立美術館、金沢21世紀美術館など)
- ・ にぎわいと交流の拠点として、大規模な展覧会や多彩なイベントなどを開催



国立工芸館



県立美術館

(7) 文化遺産の保存・活用

① 文化財の適切な保存・活用

国指定・県指定文化財の適切な保存・活用を進めます。

- 文化財の適切な保存・修復への支援
- 文化財保存修復工房を中心とした保存・修復技術の継承や情報発信
- 文化財の国宝指定、世界遺産登録に向けた気運醸成
- 金沢城の総合研究と国内外への情報発信

② 文化遺産の発掘や適切な保存・活用

建造物・史跡・名勝など文化遺産の発掘や適切な保存・活用を進めます。

- 文化遺産の適切な保存・修復への支援
- 文化遺産の掘り起こし及び活用の推進
- 富山県、静岡県と連携した日本三霊山(立山・白山・富士山)の魅力発信【再掲】(戦略3施策1(5)②参照)
- 知事公舎の利活用【再掲】(戦略3施策1(6)②参照)
- 旧尾小屋鉢山周辺地域の再整備

【KPI】

指標名	基準値		目標値 (R14 年度)
県立美術館の年間来館者数	46 万人 (H29 ~ R1 年度の平均)	⇒	60 万人
県立歴史博物館の年間来館者数	16 万人 (H29 ~ R1 年度の平均)	⇒	20 万人
県立音楽堂の年間入場者数	28 万人 (H29 ~ R1 年度の平均)	⇒	30 万人
美術鑑賞に親しむ人の割合	13.4% (R3 年)	⇒	25%
クラシック音楽に親しむ人の割合	4.2% (R3 年)	⇒	12%
茶道に親しむ人の割合	1.2% (R3 年)	⇒	4%
華道に親しむ人の割合	2.0% (R3 年)	⇒	3%
兼六園・金沢城公園の年間入園者数	511 万人 (H27 ~ R1 年度の平均)	⇒	590 万人
県立図書館の年間来館者数	78 万人 (R4 年度) ※ 7/16 ~ 3/31	⇒	120 万人
国・県指定文化財等件数	881 件 (R4 年度)	⇒	970 件

施策2 スポーツを通じた活力の創造

県民の心身の健康増進やスポーツを通じた地域活性化に向け、誰もがスポーツに参加できる環境の整備、アーバンスポーツなど新たな競技への対応によるスポーツの裾野を拡大するとともに、東京オリンピック・パラリンピック大会レガシーの継承、パラスポーツの振興、次世代アスリートの競技力向上などを図ります。

(1) 競技スポーツの振興

①全国や世界の舞台で活躍できるアスリートの発掘・育成・強化

競技団体や関係機関と連携し、アスリートの発掘・育成・強化を進め、中長期の視点で、戦略的に、全国や世界の舞台で活躍できるアスリートの継続的な輩出を目指します。

- 各種競技団体や中学生・高校生の競技力向上に対する支援
- 国際大会等での活躍が期待される次世代アスリートの育成
- ジュニアアスリートの発掘及びワールドクラス・パスウェイ・ネットワーク[※]を活用した選手育成
- 日本体育大学との連携による高校生の競技力の向上や生徒の交流
- スポーツ指導者の養成と資質向上

日本体育大学との連携

学生スポーツのトップレベルにあり、スポーツに関する専門学部・大学院を有する日本体育大学と包括連携協定を締結。同大学と連携し、優秀な選手の指導・育成ノウハウの活用により、石川県のスポーツのさらなる競技力向上を図ります。



協定締結式



日体大生と県内高校生の交流イメージ

[※] ワールドクラス・パスウェイ・ネットワーク…タレント発掘・育成に携わる関係団体等が連携し、日本全体として国際舞台で活躍するアスリートを発掘・育成するシステムを構築することを目的として設立したもの

②スポーツ医科学情報センターによるサポート

ジュニア選手やトップアスリートなどの育成・強化を図るため、コンディショニング指導やメディカル・メンタル・栄養・情報戦略などのサポートを行うスポーツ医科学情報センターを設置し、北信越地域の拠点となるよう取り組みます。

- 「いしかわスポーツ医科学情報センター」の設置
- デジタル技術を活用した選手と指導者・医科学情報センターの情報共有
- アスリートへの医科学サポート支援の充実
- 国のハイパフォーマンススポーツセンターや大学などとの連携による最先端指導
- コーディネーターによる県下全域でのサポート体制の構築
- スポーツ指導者の養成と資質向上 【再掲】(戦略3施策2(1)①参照)

スポーツ医科学情報センター

スポーツのトレーニングでは、これまではフィジカル強化が中心でしたが、近年では、コンディショニング指導やメディカル・メンタル・栄養・情報戦略などの医科学情報サポートの重要性が広く認識されてきています。こうした先進的な指導を行うため、スポーツ医科学情報センターを設置します。



医科学サポートとアプリによる情報共有イメージ

③時代に即した選手育成

選手自らが考え、トレーニングを実践し、アントラージュ（関係者）がこれをサポートする「アスリート・センタード」の指導を推進するとともに、競技団体のガバナンス強化やアンチドーピングなどの取組により、時代に即した選手の育成を進めます。

- 日本体育大学との連携による選手の主体性を大切にする指導の推進
- スポーツ指導者の養成と資質向上 【再掲】(戦略3施策2(1)①参照)
- ガバナンスやコンプライアンス、アンチドーピング[※]、体罰禁止に関する研修会の開催



※ アンチドーピング…ドーピング行為に反対し、スポーツがスポーツとして成り立つための、教育・啓発や検査といった様々な活動のこと

(2) オリンピック・パラリンピック大会レガシーの継承と発展

① オリンピック教室の開催などのオリンピック・ムーブメントの推進

東京オリンピック・パラリンピックによる県民のスポーツへの関心の高まりを、さらなる石川県のスポーツ振興につなげていくため、日本オリンピック委員会（JOC）との間で締結する「パートナー都市協定」を基に、オリンピック・ムーブメントの推進に取り組みます。

- オリンピアン・パラリンピアンを講師としたスポーツ教室の開催
- 各種スポーツイベントへのオリンピアン・パラリンピアンへの参加
- 各種国際大会の誘致



オリンピック教室イメージ



スポーツイベントへのオリンピアン参加イメージ

② ホストタウン国との交流など大会レガシーの活用

県内で東京オリンピック・パラリンピックの事前合宿を行ったホストタウン国との交流を継続するなど、大会レガシーの活用を進めることにより国際交流や海外誘客、地域振興につなげます。

- カヌー競技のアジア・パシフィック・スプリント大会の誘致
- 市町と連携したホストタウン国との交流の継続・発展



カヌー競技・国際大会イメージ

(3) スポーツの裾野拡大・地域活性化

①若年者から高齢者までライフステージに応じたスポーツ活動の推進

心身の健康の増進、健康で活力に満ちた長寿社会の実現のため、若年者から高齢者まで、ライフステージに応じたスポーツ活動を推進します。

- 「いしかわ県民スポーツの日（4月第4日曜日）」におけるスポーツ施設の無料化やスポーツイベントの実施
- 県民の誰もが気軽にスポーツに親しむことのできるイベントなどの開催（いしかわスポーツレクリエーション交流大会など）
- スマートフォンアプリ「いしかわスポーツマイレージ」を活用したスポーツを「する」「みる」「ささえる」の促進
- 総合型地域スポーツクラブの活動支援や地域のスポーツ指導を担う人材養成
- HPやアプリを活用したイベントなどスポーツに関する情報提供の充実
- スポーツ施設（陸上競技場など）のリニューアル整備
- 学校部活動の地域連携や地域クラブ活動への移行など部活動改革の推進
【再掲】（戦略4施策1（3）⑤、⑥参照）

②アーバンスポーツの振興によるスポーツの裾野拡大

若者のスポーツ離れが懸念される中、東京オリンピックを機に、若者の関心や人気が高まっているアーバンスポーツを振興し、アーバンスポーツの聖地を目指します。

- 西部緑地公園内へのアーバンスポーツ施設の設置
- アーバンスポーツの全国大会、世界大会の誘致
- アーバンスポーツ体験機会の充実
- 小中学生を対象としたアーバンスポーツ教室の開催
- アーバンスポーツ団体の組織化への支援

アーバンスポーツ

アーバンスポーツは、BMX、スケートボードなど、広い競技場などを必要とせず都市の中でできる、若者の遊びから生まれたスポーツです。従来のスポーツとは異なり、プレイヤー自身が楽しみ、パフォーマンスを通じて観客と一体となって盛り上げていく側面があるほか、音楽やファッションなどのエンターテインメントの要素とも親和性があると言われています。

東京オリンピックで、スケートボードなどが正式種目に採用され、認知度が高まっています。



BMX デモンストレーション

③スポーツを通じた交流人口の拡大と地域振興

スポーツの力で、人や地域間の交流を促進し、地域の一体感や活力を醸成することが重要であることから、スポーツを通じた交流人口の拡大と地域振興を推進します。

- 石川県ゆかりのアスリートによるスポーツの魅力発信（スポーツ大使）
- eスポーツなどの新たなスポーツの普及・振興
- スポーツ合宿の誘致

eスポーツ

「エレクトロニック・スポーツ」の略で、広義には、電子機器を用いて行う娯楽、競技、スポーツ全般を指す言葉であり、コンピューターゲーム、ビデオゲームを使った対戦をスポーツ競技として捉える際の名称です。eスポーツは、経済の活性化や交流人口の拡大につながるとされており、年齢や性別・国籍・障害などの壁を越えて、誰もが参加できるコミュニケーションツールとしての利用が進んでいます。



eスポーツイベントイメージ

④県内トップスポーツチームなどとの連携

トップスポーツチームへの県民の応援気運をさらに高めるほか、スポーツを通じた健康づくり活動への参加により、地域の活性化を図ります。

- 石川ユナイテッドと連携した「県民スペシャル応援デー」の実施
- 「いしかわスポーツキッズフェスタ」や学校でのスポーツ教室の開催
- トップスポーツチームや大学生との連携による県民の健康づくりの取組など地域貢献活動の促進

県民スペシャル応援デー

県内8つのトップスポーツチームなどで構成される石川ユナイテッドと、令和5年1月に包括連携協定を締結しました。この協定に基づき、令和5年度から、各チームへの応援気運を高めるため、新たに「県民スペシャル応援デー」を設けています。

各チームの年間ホームゲームの1試合を石川県の冠試合として、県民との交流イベントなどを実施しています。



スペシャル応援デーのイメージ

(4) パラスポーツ(パラリンピック・デフリンピック^{*1}・スペシャルオリンピックス^{*2})の振興

① パラスポーツを通じた共生社会の実現

障害のある人が、日頃からスポーツ活動に参加することは、健康増進や生きがいづくりの観点からも重要であるため、障害の有無に関わらずスポーツに親しむ機会の充実を図り、スポーツを通じた共生社会の実現を目指します。

- 障害のある人がスポーツに親しむ機会の提供
- パラスポーツチーム等と連携したパラスポーツ体験イベントや学校でのパラスポーツ教室の実施
- アスリートへの医科学サポート支援の充実 【再掲】(戦略3 施策2(1) ②参照)
- トップスポーツチームの公式戦と併せた啓発イベントによる魅力発信
- 総合型地域スポーツクラブへの指導員派遣
- 障害者スポーツ行政の一元化

② パラスポーツの振興に向けたパラアスリートの競技力向上

東京パラリンピックにおける石川県ゆかりの選手の活躍を機に、県民の関心や認知度が高まっているパラスポーツのさらなる振興に向け、パラアスリートの競技力向上に取り組めます。

- 国際大会での活躍を目指すパラアスリートの強化
- 全国大会での活躍を目指すパラアスリートの育成
- パラスポーツの全国大会の誘致

パラスポーツ

「パラスポーツ」とは、障害のある人が行うスポーツのことです。

障害があっても能力を活かしてスポーツ活動ができるように、一般的な競技のルールを障害に応じて変更したものやパラスポーツ独自に実施される競技など数多く存在します。



ボッチャ体験教室



車イスバスケット全国大会イメージ

(5) 西部緑地公園の再整備(県立野球場の建替)

石川県の高校野球の聖地としても相応しい魅力を備えた、「子どもたちが夢と希望を抱き、にぎわいの拠点となる野球場」を目指し、県立野球場の建替え整備を進めます。

※1 デフリンピック…ろう者による国際スポーツ大会

※2 スペシャルオリンピックス…知的発達障害のある人たちに様々なスポーツトレーニングとその成果の発表の場である競技会を、年間を通じ提供している国際的なスポーツ組織

【KPI】

指標名	基準値	目標値 (R14年度)
県内スポーツ施設の年間利用者数	867万人 (H29～R1年度の平均)	950万人
いしかわ総合スポーツセンターの年間利用者数	51万人 (H29～R1年度の平均)	56万人
全国大会における県内選手・団体の入賞数	128 (R1年度)	140
日本スポーツ協会公認指導者数	2,329人 (R4年度)	2,560人
いしかわスポーツ・レクリエーション大会の参加者数	22,600人 (H29～R1年度の平均)	24,800人
いしかわスポーツマイレージアプリの登録者数	24,777人 (R4年度)	50,000人
石川ユナイテッド加盟チームのホーム試合における観客数	150,952人 (R1年度)	166,000人
県障害者スポーツ大会の参加者数	1,100人 (H29～R1年度の平均)	1,200人

施策3 選ばれ続ける観光地としてのブランド力の強化

選ばれ続ける観光地としてのブランド力を強化するため、観光の担い手の育成と魅力ある受け地づくりを推進するとともに、多彩な文化資源や北陸新幹線県内全線開業の効果を活かした誘客、多様化する旅行ニーズを踏まえた戦略的な誘客を推進します。

(1) 多彩な文化資源を最大限に活用した「文化観光」の推進

① 旅行商品の高付加価値化、滞在型観光の推進による地域のブランド力向上

文化観光の推進をいしかわ文化振興条例に位置付け、文化観光推進本部の立ち上げをはじめ、「いしかわ文化観光推進ファンド」の活用などにより、旅行商品の高付加価値化や滞在型観光を推進し、地域全体のブランド力向上を図ります。

- いしかわ文化観光推進ファンドを活用し、高付加価値な文化観光素材の発掘から磨き上げ、販売促進までの伴走型一貫支援の実施
- 文化観光を推進する人材の育成・活用
- 文化観光にかかる情報発信・誘客体制の強化
- 多様化する旅行ニーズに対応した観光の魅力の発掘・磨き上げ

文化観光

芸術、伝統芸能、伝統工芸、食文化、生活文化やふるさと文化など多様な文化資源を有しています。これらの文化の担い手と観光事業者が連携することで、国内外の観光客に石川県の魅力である多様な文化資源の価値の高さや保存継承の大切さを理解していただき、旅の満足度を高めるとともに、観光客の増加や旅行商品の高付加価値化を図ることにより、地域の活性化と文化の保存継承につなげます。



文化観光ガイドモニターツアー

② 観光地の活性化の推進

地域一体となった魅力的な観光地づくりなど地域全体の活性化を推進します。

- 地域一体となった魅力的な観光地づくりの推進（能登ふるさと博、加賀の国広域観光イベントの実施など）
- 外国人旅行者向けの県内周遊観光の推進

能登ふるさと博

「元気な能登」を全国に発信するため、能登9市町が一体となって、能登半島を1つのフィールドに見立て、様々なイベントの開催や能登地域の魅力の発信、回遊性を高める取組を実施しています。



オール加賀会議

北陸新幹線の開業効果を関係市町全体の交流人口拡大と地域の発展につなげることを目指して、加賀地域の6市町が一体となって、観光魅力づくりや広域周遊の促進に取り組んでいます。



③満足度向上によるリピーターの確保

リピーターは、家族、知人などへの口コミやSNS等で観光地の魅力を宣伝するサポーターにもなることから、観光客の満足度向上によるリピーターの確保に取り組みます。

- 観光客の満足度向上による石川ファンの拡大
- 金沢駅観光案内所等の機能・サービスの充実



金沢駅観光案内所

④「兼六園周辺文化の森」における連携強化と魅力の向上

【再掲】（戦略3 施策1（6）参照）

（2）ターゲットに応じた戦略的な誘客の推進

①旅行ニーズや情報収集方法の多様化に対応した効果的な情報発信

データに基づく誘客ターゲットの設定や多様化する旅行ニーズに応じた効果的な情報発信に取り組みます。

- ワークーション[※]、サステナブルツーリズム（持続可能な観光）など旅行ニーズの多様化に対応したきめ細かな情報発信
- 誘客ターゲットを絞った情報発信
- 石川県にゆかりの深い人や石川ファンを通じた情報発信
- マスメディアを活用した情報発信
- 外国人旅行者のニーズや情報収集媒体に応じた観光の魅力発信

②三大都市圏での誘客プロモーション

北陸新幹線県内全線開業を契機とし、三大都市圏におけるイベントなどを通じたさらなる誘客プロモーションに取り組みます。

- 首都圏等で開催される大規模イベントなどを活用した情報発信
- 関西圏での情報発信拠点整備をはじめとする三大都市圏の観光案内所を活用した情報発信
- 「ひやくまんさん」を活用したプロモーション



JR大阪駅に直結する「KITTE 大阪」内の関西情報発信拠点店舗イメージ（富山県提供）

③アニメなどを活用したにぎわいの創出

アニメなどのコンテンツを活用したにぎわいの創出に取り組みます。

- 石川県ゆかりのアニメ関連企業などと連携したイベントの開催
- 石川県が舞台となった映画のロケ地PRによる誘客促進

※ ワークーション…Work(仕事)とVacation(休暇)を組み合わせた造語。テレワーク等を活用し、普段の職場や自宅とは異なる場所で仕事をしつつ、自分の時間も過ごすこと

④海外での誘客プロモーション

国内外のネットワークや交通インフラを最大限活用し、海外での誘客プロモーションに取り組みます。

- 北陸新幹線沿線自治体と連携した「新たなゴールデンルート」の定着推進に向けた魅力発信
- 小松空港国際定期便やのど里山空港へのチャーター便などを活用した誘客の推進
- 観光レップ^{*1}などを活用したPR強化

新たなゴールデンルート

従来の東海道新幹線を使ったゴールデンルートに代わるルートとして、海、山の自然や特色ある地方文化の魅力にあふれた北陸地方を経由する東京・大阪ルートを指します。

北陸新幹線金沢開業を機に、沿線の関係自治体及びJRが連携を開始し、旅行博の出展や、旅行会社の招へい、海外の有力メディアを活用した記事広告などの施策を通し、同ルートをPRすることで、訪日インバウンドの需要拡大を図るとともに、誘客促進を図っています。



⑤MICEの誘致

経済波及効果の大きい、政府主催の国際会議や国際学術会議を含むMICE^{*2}の戦略的な誘致に取り組みます。

- 金沢コンベンションビューローと連携した誘致助成制度の充実
- 国内外のMICEの誘致活動の強化

G7富山・金沢教育大臣会合

G7 広島サミットの関係閣僚会合として、令和5年5月12日から15日、G7 富山・金沢教育大臣会合が開催され、今後の教育政策の方向性を示す「富山・金沢宣言」が採択されました。

また、会合当日には、エクスカーションや歓迎夕食会でのおもてなしを通じて、各国・関係機関の代表団の皆様にも、石川県の質の高い文化や食、高い教育レベルを体感いただきました。



地元主催歓迎夕食会

⑥教育旅行の誘致

平日の宿泊需要の確保や将来のリピーターづくりに向け、教育旅行の誘致を推進します。

- 学校・旅行会社に対する誘致活動の実施

※1 観光レップ…外国人旅行者誘致のため、現地メディアや現地旅行事業者に向けて、自治体の代理としてセールスとプロモーションを行う事業者

※2 MICE・・・企業等の会議 (Meeting)、企業等の行う報奨・研修旅行 (Incentive Travel)、国際機関・団体、学会等が行う国際会議 (Convention)、展示会・見本市、イベント (Exhibition/Event) の頭文字のことであり、多くの集客交流が見込まれるビジネスイベントなどの総称

(3) インバウンドにおける高付加価値旅行者の誘客強化

観光庁のモデル観光地に北陸が選定されたことを受け、国と連携し、海外市場の特徴を捉えた情報発信や外国人のニーズを踏まえた観光コンテンツの充実など、戦略的な誘客の促進に取り組みます。

- ニーズに応じた観光素材の発掘・磨き上げ
- ユニークベニューなど特別感のある旅行商品の造成の推進
- 高付加価値旅行者層向け情報発信の強化
- 国内外のクルーズ船誘致による広域観光の促進



特別感のある観光コンテンツ
(地元の人との餅つき体験)

(4) 北陸新幹線県内全線開業の効果を活かした誘客キャンペーンの実施

北陸新幹線県内全線開業効果を持続させるため、「新幹線県内全線開業PR戦略実行プラン」に基づき、誘客キャンペーンに取り組みます。

- 北陸三県等と連携したキャンペーンの実施
- JR等と連携したキャンペーンの実施
- 白山白川郷ホワイトロードの利活用の促進
- 隣県や北陸新幹線沿線県などとの連携による広域観光の推進
- 白山市立高速鉄道ビジターセンターを活用した誘客促進
- 朝どれ水産物など新鮮な水産物の供給を基にした首都圏での販売や観光誘客の拡大に向けた県産水産物の魅力発信 【再掲】(戦略2 施策5(2) 参照)



白山市立高速鉄道ビジターセンターイメージ

(5) 基幹産業としての石川の観光を担う人材の育成

基幹産業としての観光の担い手を確保するため、高等教育機関とも連携しながら、多様な分野からの人材の参入と育成を推進します。

- 文化観光を推進する人材の育成・活用 【再掲】(戦略3 施策3(1) ①参照)
- いしかわ観光創造塾における新たな観光魅力の発掘・磨き上げ、旅行商品化を担う人材育成
- デジタル技術を活用した経営効率化や観光ビジネスを創出する人材の育成
- 外国人旅行者受入に向けた人材育成

(6) 観光資源を活かした魅力ある受け地づくり

①「兼六園周辺文化の森」の整備と活用 【再掲】(戦略3施策1 (6) ②参照)

②魅力ある石川の景観の保全・創出と魅力発信

観光地等の無電柱化や千里浜再生プロジェクトの推進など、魅力ある石川の景観の保全・創出に取り組み、その魅力を積極的に発信します。

- サイクルツーリズムの推進に向けた整備 (ナショナルサイクルルート指定に向けたサイクリング環境の整備、北陸三県が連携した取組など)
- 千里浜再生プロジェクトの推進
- 歴史文化と自然景観を活かした公園整備 (能登歴史公園、木場潟公園など)
- 無電柱化の推進や休憩所の整備など観光地や中心市街地等における個性を活かした街なみ整備
- 道の駅や寄り道パーキングなどの道路休憩施設の機能拡充
- 白山手取川ユネスコ世界ジオパークの魅力発信

木場潟公園東園地の整備

小松市の木場潟公園は、県内で唯一自然のままの姿で残された潟の環境と優れた水郷景観を有し、県民の憩いの場として、南加賀を代表する都市公園となっています。これまでの水郷に里山の魅力を加え、木場潟公園のさらなる魅力向上と一層の利用促進を図るため、新たに「東園地」を整備し、令和5年4月にオープンしました。



サイクルツーリズム (サイクリング環境の整備)

石川県の豊かな自然、美しい里山里海の景観、観光地などを、サイクリングを通じて楽しんでいただく環境整備に取り組んでいます。



手取峡谷

白山手取川ユネスコ世界ジオパーク

ジオパークは、地球や大地を表す「ジオ」と、公園の意の「パーク」とを組み合わせた造語であり、地域特有の貴重な地質遺産、自然資源、文化・歴史・産業などが一体となったエリアを指します。白山手取川ユネスコ世界ジオパークは、白山から手取川を経て日本海に至る白山市全域を範囲としており、世界的価値を持つ桑島化石壁とその産出化石や、手取峡谷、獅子吼高原といった地形や景観、脈々と受け継がれてきた文化的な人々の営みの調和の素晴らしさが評価され、令和5年5月に、国内10例目となるユネスコの世界ジオパークに認定されました。

(7) 観光地域マーケティングによる効果的な観光施策の推進

①ビッグデータなどを活用した戦略的な観光施策の立案・実施・効果検証

人流やSNSなどのビッグデータ等を活用した戦略的な観光施策の立案・実施・効果検証を行います。

- 観光マーケティングプラットフォームの構築、活用

②県全域のDMOである石川県観光連盟の機能強化

県全域のDMO (Destination Management / Marketing Organization)*として石川県観光連盟の機能強化を図ります。

- 観光地域づくりを推進する司令塔としての体制強化

【KPI】

指標名	基準値	目標値 (R14年度)
観光入込客数	2,484 万人 (H27～R1年の平均)	⇒ 2,800 万人
観光消費単価	15,686 円 (H27～R1年の平均)	⇒ 17,000 円
外国人観光消費額	195 億円 (R1年)	⇒ 400 億円
外国人宿泊者数	77 万人 (R1年)	⇒ 100 万人
外国人観光消費単価 (1人1泊あたり)	24,122 円 (R1年)	⇒ 40,000 円
道の駅の 年間利用客数	312 万人 (H29～R1年度の平均)	⇒ 340 万人

* DMO…多様な関係者と協同しながら、明確なコンセプトに基づいた観光地域づくりを実現するための戦略を策定するとともに、戦略を着実に実施するための調整機能を備えた法人

施策4 交流人口の拡大に資する陸・海・空の交流基盤のさらなる充実

国内外の人やものの交流促進に向け、北陸新幹線の早期全線整備、幹線道路ネットワークの強化や地域公共交通の確保、金沢港・七尾港の港湾機能の充実、小松空港の機能拡充やのと里山空港の活性化など、陸・海・空の交流基盤のさらなる充実を図ります。

(1) 北陸新幹線の早期全線整備

大阪までの早期全線整備実現のため、関西圏を含めた沿線地域との連携を密にし、国等への働きかけを強化します。



北陸新幹線

(2) 幹線道路ネットワークの強化

県土を隈なく網羅する幹線道路網整備や隣県へのアクセス強化など、人やものの交流を一層盛んにするため、幹線道路ネットワークを整備します。

- 細長い県土のさらなる一体化・高速化の促進（能越自動車道、のと里山海道4車線化、金沢外環状道路、加賀海浜産業道路など）
- 北陸新幹線でつながる北陸三県や岐阜県を結ぶ県際道路の整備（小松白川連絡道路、国道8号、国道415号、金沢湯涌福光線など）
- 鉄道、港湾、空港と道路との連携強化による人・ものの円滑な移動の確保（金沢外環状道路、加賀海浜産業道路など）
- 能登・金沢・加賀各地域の魅力ある観光地相互の連携強化による回遊性の向上（奥能登絶景海道、国道249号、加賀産業開発道路など）
- 緊急時の救急・支援活動を支える骨太で多重な幹線道路ネットワークの確保（奥能登横断道路、中能登横断道路、七尾外環状道路など）



石川県の幹線道路網

(3) 安心して快適に移動できる公共交通の実現

①交通DX・GXの推進

キャッシュレス化や自動運転など、地域公共交通分野におけるDX・GXを推進するため、事業者や市町の取組を支援します。

- キャッシュレス化やMa a S^{*1}などの活用による公共交通機関の利便性向上、利用促進
- AIオンデマンド型交通^{*2}や自動運転など新技術の活用促進
- 環境負荷の少ない車両（バス・タクシーなど）の導入促進

②持続可能な地域公共交通の維持・確保・充実

人口減少社会においても持続可能な地域公共交通の維持・確保・充実を図るため、事業者や市町の取組を支援します。

- 市町との連携による生活に不可欠な交通サービスの確保（コミュニティバス、デマンド型交通^{*3}など）
- 企業や地域とのコラボレーションによる駅のにぎわい創出
- ノンステップバスの導入や駅・バス停などのバリアフリー化の促進
- 石川県の東西をつなぐ交流幹線軸となるIRいしかわ鉄道の経営イノベーションの推進（交通DXを活用した駅アクセスの向上、周遊観光促進など）
- のと鉄道の安定的な運行・経営の確保と、能登地域へのさらなる誘客の推進（観光列車「のと里山里海号」を軸とした団体誘客、アニメとのタイアップ等による個人誘客など）
- 鉄道や生活バス路線などの運行維持や設備投資への支援



IRいしかわ鉄道



のと鉄道観光列車「のと里山里海号」

※1 Ma a S (Mobility as a Service) …地域住民や旅行者一人一人の移動ニーズに対応して、複数の公共交通やそれ以外の移動サービスを最適に組み合わせて検索・予約・決済などを一括で行うサービス
 ※2 AIオンデマンド型交通…AIを活用しリアルタイムに最適配車を行うシステム
 ※3 デマンド型交通…事前予約により運行する路線バスとタクシーの中間的な位置にある交通機関

(4) 港湾機能の充実による交流促進

① 金沢港・七尾港における取扱貨物やクルーズ船の寄港拡大

港の立地の優位性や特性を活かして金沢港・七尾港における港湾の活性化を図るとともに、クルーズ船の誘致強化と受入体制の整備を進めます。

- 取扱貨物の種類・量の拡大に向けた戦略的なポートセールスの推進
- 金沢港の優位性を活かしたクルーズ船の誘致強化と受入体制の整備
- 国内外のクルーズ船誘致による広域観光の促進 【再掲】(戦略3施策3(3)参照)



御供田国際コンテナターミナル（金沢港）



七尾港でのクルーズ船の寄港

② 金沢港・七尾港における国際物流拠点化、にぎわいの創出

人やものの交流における新たなニーズを踏まえて、港湾用地の適正配置を行うなど、金沢港・七尾港における国際物流拠点化及びにぎわいの創出に取り組みます。

- 金沢港の将来ビジョンの策定、金沢港港湾計画の改訂
- 船舶の大型化に対応した港湾機能の強化
- 金沢港における新たなニーズを踏まえた港湾用地の適正配置とさらなる利活用
- カーボンニュートラルポートの形成の推進

金沢港の将来ビジョン及び港湾計画

金沢港では、クルーズターミナルの整備などに取り組み、貨物・クルーズ・にぎわいの拠点として、大きな変貌を遂げています。

一方、コンテナ船の大型化やカーボンニュートラルポートの形成促進など、金沢港を取り巻く環境が変化していることから、長期的視点に立った港の目指すべき姿を描く「将来ビジョン」を策定するとともに、具体化するため、港湾計画を改訂し、将来ビジョンの実現に取り組んでいきます。



(5) 小松空港の日本海セントラルゲートウェイ化

東アジア、東南アジアからの新規路線の開設など世界と日本各地をつなぐ日本海セントラルゲートウェイとして、小松空港の第二滑走路の整備や空港運営の民間委託の検討など機能拡充に取り組めます。

- 東アジア、東南アジアからの新規路線の開設に向けた取組の推進
- 乗継利用など航空の優位性を活かした航空需要の創出
- 空港内エプロンの増設を契機とした国際航空貨物取扱量の拡大
- 国際旅客便を活用した県産品の海外への輸出
- ターミナルビルの改築も見据えた地域のにぎわい拠点化



小松空港

(6) のと里山空港の交流拠点としてのさらなる活性化

大都市と能登をつなぐ人とももの交流拠点として、首都圏・地元双方の利用促進など、のと里山空港のさらなる活性化に取り組めます。

- 首都圏・地元双方の利用促進による羽田便の複数便維持
- 能登の新鮮な海産物を就航地へ直送
- 海外からのインバウンドチャーター便の誘致
- 海外からのプライベートジェットの誘致
- 空港の脱炭素化の推進



のと里山空港

【KPI】

指標名	基準値		目標値 (R14 年度)
県内の移動 1 時間圏・ 1 時間半圏	1時間圏：46% 1時間半圏：77% (R4 年度)	⇒	1時間圏：56% 1時間半圏：87%
金沢港外貿コンテナ 貨物量	71,716TEU (R1 年)	⇒	80,000TEU
金沢港クルーズ船 寄港数	50 本 (R1 年度)	⇒	60 本
小松空港国内線 利用者数	156 万人 (R1 年度)	⇒	160 万人
小松空港国際線 利用者数	21 万人 (R1 年度)	⇒	30 万人
小松空港国際貨物 取扱量	4,940トン (R4 年度・週 1 便)	⇒	19,000トン (週 3 便)
のと里山空港 利用者数	17 万人 (H30.7 ~ R1.6)	⇒	17 万人
地域鉄道・乗合バス 利用者数	5,480 万人 (R1 年度 (推計))	⇒	5,480 万人
鉄道のキャッシュ レス ^(※) 普及率	40% (R5 年度)	⇒	100%
路線バスのキャッ シュレス ^(※) 普及率	6% (R4 年度)	⇒	100%
I R いしかわ鉄道の 普通列車運行本数	197 本 (R4 年度)	⇒	197 本
のと鉄道の運行本数	34 本 (R4 年度)	⇒	34 本
のと鉄道の観光目的 利用者数	62,925 人 (R1 年度)	⇒	70,000 人

※全国共通で利用可能な交通系 IC カードや世界中で利用可能なクレジットカードなどのキャッシュレス決済手段

施策5 地域活力の向上に向けた移住・定住の促進

コロナ禍を契機に地方移住への関心が高まっており、場所に捉われない多様な働き方・暮らし方など、新たなニーズや一人一人のニーズに寄り添ったきめ細かな支援を行うことで、石川県への移住・定住を促進します。

(1) 一人一人のニーズに寄り添ったきめ細かな支援による石川県への移住・定住の促進

① 様々な切り口・手法による石川での暮らしの魅力発信

移住希望者の関心に合わせて、セミナーや相談会の開催、SNSによる情報発信など様々な手法を活用し、石川県での暮らしの魅力や子育てしやすい環境を広く発信することにより、石川県への移住につなげます。

- 市町と連携した首都圏での移住セミナー、大規模移住相談会の開催
- 他県と連携した移住イベントの開催
- 移住ポータルサイト、移住専門誌、SNSなどによる情報発信
- 子育て情報誌やウェブメディアと連携した子育て世帯向けのPR強化

② 石川県での暮らしの魅力が実感できる機会の提供

将来的な移住を見据え、移住先を検討している層に対して、ニーズに合った石川県での暮らしの魅力が実感できる機会を提供します。

- 現地訪問やオンラインの活用による移住体験機会の提供
- 移住希望者と地域との交流プログラムの実施



移住体験機会の提供
(いしかわ子育て移住ツアー)

③ 移住希望者の受入体制の整備

移住を決め、移住に向けて準備をしている層に対して、移住の際の経済的負担を軽減する支援制度などにより、石川県への移住を後押しします。

- いしかわ就職・定住総合サポートセンター（ILAC）によるマッチング支援強化
【再掲】（戦略1 施策3（1）②参照）
- いしかわ移住パスポート（Iパス）や移住支援金などによる移住者の経済的負担の軽減
- 移住者の起業支援（起業支援金、セミナーの開催など）

移住セミナー、大規模移住相談会

首都圏等で石川県の暮らしの魅力を紹介する移住セミナーのほか、ILACや市町などの移住に係る関係機関が一堂に会した大相談会を開催しています。

移住体験

移住希望者のニーズに応じて、農林漁業や旅館・民宿などでの仕事体験のほか、子育て施設や買い物環境の確認、古民家等での暮らしを体験していただく機会を提供しています。

いしかわ移住パスポート（Iパス）

石川県への移住希望者や移住後1年以内の方に対して、協賛事業者の店舗で各種の割引サービスや特典が受けられるパスポートを交付しています。



（2）多様な暮らし方・働き方への志向の高まりを捉えた新たな人の流れの創出

テレワークといった場所に捉われない働き方・暮らし方の実現など、新たなニーズを踏まえた取組を展開します。また、住んでいる場所や来県の有無によらず、石川県に関わりを持つ関係人口の増加を目指します。

- お試しテレワーク移住への助成
- クリエイティブ人材などコンテンツ産業の集積に向けた人材・企業の誘致 【再掲】（戦略1 施策4（1）③参照）
- 地域との交流に興味のある県外の学生・社会人など（関係人口）と地域住民との交流機会の提供

いしかわステイサポート

県外の学生、社会人などが県内に滞在しながら、地域の企業などで働いたり、祭りや農作業などの地域活動に参加して、地域の魅力を体感してもらう交流プログラムを提供しています。



【KPI】

指標名	基準値	目標値（R14年度）
県と市町の施策を活用した移住者数	1,642人 (R4年度)	2,500人

施策6 個性豊かな地域づくり

個性豊かで持続可能な地域づくりに向けて、地域づくりの担い手の確保・育成や外部人材の受け入れを促進するとともに、地域が有する多彩な地域資源の活用による魅力の創出・継承に向けた取組やハード面からの街なみ整備などを推進します。

(1) 金沢城公園の整備

①金沢城二の丸御殿の復元整備、石垣の保全

全国を代表する近世城郭の一つである金沢城の価値や魅力を高めるとともに、石川の匠の技や、全国に誇る伝統工芸を次世代へ継承していくため、二の丸御殿の復元整備や石垣の保全に取り組みます。

②御殿復元や復元建造物の認証に向けた気運の醸成

デジタル技術（VR、AR（Augmented Reality）など）を活用した情報発信を行い、御殿復元や復元建造物の認証に向けた気運の醸成を図ります。

御殿復元など

金沢城公園は、兼六園と並ぶ石川県のシンボルとして整備に取り組んでいます。

現在は、藩主の住居や政務の場として城の中枢を占める城内最大の建物であった二の丸御殿の復元整備を進めるとともに、重要な遺構である城内各所の石垣の保全対策を進めています。

御殿の復元整備は、儀礼や政務の場である「表向」の主要部を対象とし、そのうち玄関や式台周辺を第1期整備範囲としています。また、御殿の復元への理解を深めていただくため、情報発信にも取り組んでいます。



「表向」主要部の復元イメージ

(2) 西部緑地公園の再整備（県立野球場及び産業展示館の建替えに併せた園全体の再整備）

緑豊かな心地よい空間と多彩なスポーツ・イベントが楽しめる夢の空間を創出し、さらなるにぎわい創出を図ります。



西部緑地公園完成イメージ

(3) 森林公園の魅力向上（石川県森林公園におけるリニューアル・魅力発信）

開園50周年を契機として、森林公園の豊かな自然を活かした年間を通じた魅力アップと利便性向上に取り組むとともに、生物多様性や性的マイノリティなど人の多様性を尊重する社会の重要性を発信する場として活用します。

石川県森林公園リニューアル施設



屋内木育施設
(R6 夏休み前オープン予定)



バーベキュー場
(R5.5 オープン)

(4) 多様な人々が交流し、役割を持ち活躍できる地域づくり

①地域づくり活動のリーダーとなる人材の育成

地域づくりの担い手の確保のため、地域づくり活動のリーダーとなる人材を育成します。

- 地域づくりに取り組む人材の研修機会の提供

②外部人材との協働による地域づくり

地域での様々な課題の解決に向け、外部人材の受け入れを促進し、地域住民と協働した地域づくりに取り組みます。

- 地域おこし協力隊の活動促進に向けた支援
- 地域との交流に興味のある県外の学生・社会人など（関係人口）と地域住民との交流機会の提供
【再掲】（戦略3 施策5（2）参照）
- 豊かな自然や文化などを活かしたサテライトキャンパス*構想の推進

③ボランティアやNPOの育成・活動支援

県民がボランティア活動に参加しやすい環境づくりの推進や社会貢献活動を行うNPOの育成・活性化の支援に取り組めます。

- ボランティア活動に関する相談や情報提供などの取組の推進
- NPOの活動を支援するための情報提供、指導・助言、研修機会の充実
- 災害ボランティアの活動環境の充実 【再掲】（戦略6 施策1（3）⑤参照）

* サテライトキャンパス…大学が、校舎以外の場所に設置して授業などを行う施設のこと

(5) 地域が有する多彩な地域資源の活用による魅力の創出・継承

地域が主体となり、今ある地域独自の資源を活用し、磨きをかけるとともに、将来に継承していくための取組を推進します。

- 地域の特産品や自然など、その地域特有の資源を活用した地域の魅力向上

(6) 地域の魅力を活かしたにぎわいのあるまちづくり

持続可能でにぎわいのある集約型まちづくりや、安心して快適に移動できるみちづくり、緑と水の空間の創造と利活用の充実など、地域の魅力を活かしながら、にぎわいのあるまちづくりを推進します。

- まちづくり協議会等との協働による沿道の街なみと一体となった街路整備
- 無電柱化の推進や休憩所の整備など観光地や中心市街地等における個性を活かした街なみ整備【再掲】(戦略3 施策3 (6) ②参照)
- 地域の実情に即した集約型のまちづくり支援
- 市町の空き家対策の支援
- 市街地の円滑な自動車交通を確保する道路整備(環状・放射道路(泉野々市線、乙丸跨線橋など)、交差点の渋滞対策など)、地域間連絡道路の整備【再掲】(戦略6 施策2(2) ①参照)
- 時代の変化に応じた道路空間のリニューアル(道路空間の再配分による歩行者、自転車、シェアカー、電動キックボードなどの安全性の確保)【再掲】(戦略6 施策2(2) ①参照)
- 公園のリニューアルや管理運営への民間活力の導入
- 官民連携による緑の空間づくり
- 河川の良好な環境を活かした、かわまちづくりの推進

無電柱化を核とした観光地や中心市街地などの個性を活かした街なみ整備

街の個性や魅力を高めるために、無電柱化を核とした沿道建物の保全・修景、屋外広告物の整理統一、舗装や照明などの道路修景整備を地元のまちづくり協議会などと協働で行うなど、地域固有の文化、商業、観光資源を活かした美しい街なみ整備に取り組んでいます。



無電柱化を核とした街なみ整備

【KPI】

指標名	基準値	目標値 (R14 年度)
兼六園・金沢城公園 の年間入園者数 【再掲】	511 万人 (H27 ~ R1 年度の平均)	⇒ 590 万人
西部緑地公園の 年間利用者数	190 万人 (H29 ~ R1 年度の平均)	⇒ 240 万人以上
森林公園の 年間入園者数	18 万人 (H29 ~ R1 年度の平均)	⇒ 28 万人
地域おこし協力隊の 受入隊員数	177 人 (R4 年度までの累計)	⇒ 380 人 (累計)
専門家等の活用により 地域づくりに取り組む 団体数	175 団体 (R4 年度までの累計)	⇒ 260 団体 (累計)
地域課題解決などの フィールドワーク プログラムに 取り組む学生数	300 人 (R4 年度)	⇒ 5,000 人 (R5 ~ R14 年度の累計)
NPO 法人数	380 法人 (R4 年度)	⇒ 420 法人
県と NPO との 協働件数	98 件 (R4 年度)	⇒ 130 件

施策7 世界に開かれた国際交流の推進

世界に開かれた地域として、文化安全保障の理念に基づき、文化を通じた国際交流を推進するとともに、国際社会に通用する人材育成を行い、世界の各地域との多様な国際交流・国際協力を推進します。

(1) 世界の各地域との多様な国際交流・国際協力の推進

国境を越えた交流の拡大に向け、友好交流地域など世界各地とのネットワークや石川県の特色を活かした多様な交流を推進します。

- 友好交流地域をはじめとする世界の各地域との積極的な交流
- 石川ジャパニーズ・スタディーズ・プログラムやJAPAN TENTなど、石川県の豊かな文化、歴史、自然を活用した国際交流の推進と石川県の魅力発信

石川ジャパニーズ・スタディーズ・プログラム

石川ジャパニーズ・スタディーズ・プログラム（通称：IJS P）は、海外の大学生などの日本語学習者が、石川県でホームステイをしながら、日本語研修のほか、石川県の豊かな自然や文化を活かした日本文化体験を行う、石川県独自のプログラムです。



JAPAN TENT

JAPAN TENT は、毎年夏に1週間程度、日本各地から留学生を石川県に招き、ホームステイを行うとともに、県民との交流を図るイベントです。



(2) 民間国際交流団体の充実と国際社会に通用する人材育成

① 民間国際交流団体の活動内容の充実と行政との連携・協働体制づくり

石川県の草の根国際交流を支え、国際化推進の大きな原動力となっている民間国際交流団体の活動内容の充実と行政との連携・協働体制づくりを推進します。

- 民間国際交流団体における多様な活動の支援
- 石川県国際交流協会を核とした国際交流推進体制の強化

②国際社会に通用する人材の育成と県民の国際理解の促進

加速するグローバル化に的確に対応していくため、国際社会に通用する人材の育成と県民の国際理解を促進します。

- 21世紀石川少年の翼事業による次代を担う青少年の育成
- 国際交流員や外国語指導助手による国際理解の促進

21世紀石川少年の翼

「21世紀石川少年の翼」は、石川県の友好交流地域である韓国・全羅北道、中国・江蘇省、ロシア・イルクーツク州との間で行っている青少年交流プログラムです。石川県と同地域の中高生が相互訪問を行います。ホームステイや学校訪問などを通じて、両国の相互理解と友好を促進するとともに、広い視野と国際感覚を持つ青少年を育成します。



(3) 文化安全保障の理念に基づく取組の推進

世界情勢が不安定な中、国際的な文化交流による平和の実現に向け、大阪・関西万博など国際規模のイベント等の機会を捉え、文化を通じた国際交流を推進します。

文化を通じた国際交流の前提として、地域の身近な文化を大切にす土壌を育むため、日本各地固有の伝統芸能や祭りなど、地域に根付いた文化の保存・継承・発展に取り組みます。

【KPI】

指標名	基準値	目標値 (R14年度)
国際交流に係る登録ボランティア数	637人 (R4年度)	⇒ 1,000人
国際交流に係るホームステイホストファミリー数 (人口10万人あたり)	27.6家族 (R4年度)	⇒ 40家族
石川ジャパニーズ・スタディーズ・プログラムの受講生数	2,738人 (H25～R4年度の累計)	⇒ 3,000人 (R5～R14年度の累計)